

続けることが 自信につながります

狩野紀子さん（63歳）は、現在、岩神小地区の交通指導員として活動しています。毎朝登校時の児童の安全を守るために活躍している狩野さんに、危険が伴うこの仕事を引き受けた理由などをお聞きしました。

地域に役立つ

ことをしたい

交通指導員になりたいきざつは。

小学校のPTAの役員をしていたときに、交通指導員に欠員が生じていました。女性でもよければ、できるかどうかわからないけれどもやってみようと思いました。

自分の子どもに手が掛からなくなったから、何か地域のために役に立つことをしたかったんです。青少年補導員の仕事も二十年近くやっていますから、男性が多いのはあまり負担に感じなかったですね。

女性の指導員は何人いるんですか。

全市で女性は四人です。平成三年から交通指導員の仕事に携わっていますから、女性では経験が一番長い

ということになります。

会議などに出席すると、確かに男性が多いですが、ここは自分が来る場所と自分に言い聞かせていますから、苦になりませんよ。

主に行っている仕事はどんなことですか。

毎朝の登校時における児童の保護誘導と、PTA会員に対する旗振りの指導が中心になります。そのほかにも、小学校などが主催する交通安全教室の指導や市の主催する大きなイベントでの街頭指導がありますね。もちろん、地域で実施される行事には、できるだけ協力するようにしています。

責任のある仕事に

やりがい

児童の安全誘導は、危険が伴う仕事ですから、緊張の連続ではないですか。

確かに、責任が重い仕事とっています。でも、子どもはかわいいですね。子どもたちから声を掛けられたりするとやはりうれしいですよ。わたしのほうが元気をもらっているという感じですよ。



これが自分の仕事とっていますから、緊張しながらも毎日やって来られたのだと思っています。人生の中で、こういう仕事ができることは幸せです。制服を着ると気持ちが引き締まるんですよ。

保護者も一緒にやってくれるのですが、現在の場所は、交通量が多く、保護者はとて大変な所だと言っています。信号もないですし、事故を起こさないよう、気を使いますね。交通マナーを守らない人が多いですからね。

自然体で

目標に向かって

これからも今の仕事を続けて

いくつもりですか。

幸い健康にも恵まれています。一つのことを続けられれば、自信につながりますから。男性の中に入っているいろいろな話を聞いてみると、とても刺激があって、自分自身も勉強になります。女性にできる仕事は見つければかなりあるんですよ。要は、見栄を張らずに、自然体でいくことですよね。

もっと女性の指導員が多くなってくるといいですね。簡単にはいかないでしょうけど。男性の指導員もかなり高齢の人もいますから、男性だけに任せておくわけにもいけませんよ。これからは、男女がお互いに協力し合っていかなければ、前に進んでいきませんよ。